

年頭所感

中澤 靖夫

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長



2020年の新春を迎え、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

平素は本会の事業の推進につきまして、ご理解とご協力を頂き深く感謝申し上げます。本年も昨年同様にご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

初春を迎え、会員の皆さま方におかれましては、どのような夢と希望と目標を抱かれたことでしょうか。昨年は、第35回日本診療放射線技師学術大会、8地域における放射線医療技術学術大会、第13回JART・JSRT合同学術・市民公開セミナー、第80回定時総会などに出席し、本会の事業方針を伝え、ご理解とご支援を頂いてきたところです。

世界の潮流を見てみると、フランス・ビアリッツで開催されたG7では、外交・安全保障政策として北朝鮮問題、中東情勢、アジア情勢（香港の状況を含む最近の中国）、ロシア・ウクライナ情勢、アマゾンの森林火災などが議論されました。特にわが国としては、北朝鮮の核開発は断じて許すことのできない喫緊の課題であり、日本国を守るためには積極的な平和外交と、42年以上北朝鮮に拉致されている被害者の奪還に向けた国民的取り組みが必要であります。世界各国の大統領や首相が交代したとしても、世界平和のために尽力してほしいと願っています。国連に参加する全ての国の指導者は、地球が抱えているさまざまな問題に対して「地球は一つ」「人類は一つ」という視点から、人種差別をなくし、平和五原則である領土・主権の相互尊重、相互不可侵、相互内政不干渉（人権問題を除く）、平等互惠、平和共存の下、各国がそれぞれの役割を担う中で世界平和の醸成に努めていただきたいと思います。

科学技術の進歩は人類に計り知れない貢献をしています。

1895年11月8日、ヴェルツブルク大学物理学教授W.C.レントゲン博士によってX線が発見され、人類に多大なる貢献をしております。レントゲン博士はX線発見の功績により第1回ノーベル物理学賞を受賞されています。2019年のわが国におけるノーベル受賞者は、旭化成名誉フェローで名城大学教授の吉野彰博士が、リチウムイオン電池の開発によりノーベル化学賞を受賞されました。この受賞は、米国テキサス大学オースティン校ジョン・B・グッドイナフ教授、ニューヨーク州立大学ビンガムトン校M・スタンリー・ウィットティンガム教授との共同受賞であります。彼らの先駆的で実用的な研究がモバイル社会を可能にしました。心から称賛の拍手を送りたいと思います。

2019年3月11日、「診療用放射線に係る安全管理体制並びに診療用放射性同位元素及び陽電子断層撮影診療用放射性同位元素の取扱いについて」医療法施行規則の一部を改正する省令（平成31年厚生労働省令第21号）が公布されました。省令改正を受け、本会は2020年の事業として、厚生労働省後援の下、医療放射線安全管理責任者養成講習会を実施していく所存であります。

2019年10月から「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会」が開催され審議が進められています。診療放射線技師のさらなる役割拡大が決定すると、診療放射線技師養成カリキュラムの見直しとともに既卒の診療放射線技師に対する「新しい統一講習会」を実施する必要があります。2015年4月から2020年3月まで47都道府県で進めてきた統一講習会履修者が優先対象となり、新たに追加された役割拡大業務の統一講習会を受講する必要があります。

2018年3月から2019年11月まで「診療放射線技師学校養成所カリキュラム等改善検討会」が開催され、現行の95単位から102単位に移行すること、診療画像技術学・臨床画像学の中で正常所見、代表的な異常所見および緊急対応を要する画像所見について学習すること、診療参加型実習が望ましいことなどが決定し、2022年4月の実施に向けて動きだしました。本会もこの動きに合わせて、既卒者のための「臨床画像学（正常所見、代表的な異常所見、緊急対応を要する画像所見の学習）等に関する統一講習会」開催に向けた準備を行う予定であります。

本会は、真のチーム医療を推進するために、患者安全を第一優先とし、医療安全の視点からさまざまな生涯教育に取り組んでいます。そして「国民と共にチーム医療を推進しよう」をスローガンに、医療者と協働し、質の高い医療技術を提供する診療放射線技師を継続的に支援し、社会的責任を遂行する所存であります。

皆さま方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。